

平成23年7月12日

香川県知事 浜田 恵造 殿

香川県ダム検証に係る検討委員会
委員長 白木 渡



香川県ダム検証に係る検討について（椋川ダム）

本日、第4回香川県ダム検証に係る検討委員会において審議したところ、当委員会は「椋川ダム検証に係る検討」に関して、別紙のとおり検討段階での意見を付して審議結果をとりまとめた。

貴職におかれては、今後、当委員会の意見及び審議結果を十分に踏まえ、県の対応方針を決定されたい。

「柵川ダム検証に係る検討」に関する意見及び審議結果

香川県ダム検証に係る検討委員会

1. 香川県ダム検証に係る検討委員会の開催経緯

この委員会において、柵川ダム事業について審議等を実施した経緯は、以下のとおりである。

実施日	実施項目	審議内容等
平成 22 年 12 月 13 日	第 1 回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム検証に係る検討の経緯について ・ダム検証に係る検討の進め方について ・検証対象ダムの概要について
	現地視察	<ul style="list-style-type: none"> ・香東川河口：潮止堰付近 ・香東川中流：岩崎橋付近 ・柵川ダム建設現場
平成 23 年 3 月 22 日	第 2 回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の点検 ・目的別検討（治水対策案）
平成 23 年 4 月 25 日	第 3 回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・目的別検討（新規利水の観点からの検討、流水の正常な機能の維持の観点からの検討） ・総合的な評価
平成 23 年 7 月 12 日	第 4 回委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・検討案に係る提出意見とそれに対する県の考え方（パブリック・コメント、関係住民及び関係利水者への説明会） ・対応方針（案）

以下、県が行った「柵川ダム検証に係る検討」を本検討といい、「香川県ダム検証に係る検討委員会」を検討委員会という。

2. 検討委員会の審議経過

本検討に関して検討委員会が審議等を行った項目は以下のとおりである。

1) ダム検証に係る検討の経緯について

- ・国におけるダム検証の経緯

2) ダム検証に係る検討の進め方について

- ・「ダム検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」（国土交通省）の考え方
- ・香川県のダム検証に係る検討の進め方と検討委員会での対応

3) 検証対象ダムの概要について

- ・香東川流域の概要【水系の概要・水利用の現況・河川特性・河川環境】
- ・過去の主な洪水及び濁水被害
- ・香東川水系河川整備計画の概要
- ・柵川ダム事業の計画概要と進捗状況
- ・香東川の河口付近から柵川ダム付近まで河道の状況とその周辺の確認【現地視察】
- ・香東川河川整備計画における河川整備区間（河口及び岩崎地点付近）の確認【現地視察】
- ・柵川ダム予定地でダムサイト付近の現況や工事状況（付替県道工事等）の確認【現地視察】

4) ダム事業等の点検

- ・計画の前提となっているデータの点検と現治水・利水計画や堆砂計画の妥当性
- （ 近年出水・雨量データ等の追加（計画策定時（S29～H10）以降のデータを追加（H11～21））
最新土地利用メッシュデータによるかんがい面積の点検
近傍ダムの堆砂実績と栴川ダムの堆砂量の比較 ）
- ・全体事業費の点検（用地補償や工事実績と、最新の設計及び計画を反映）

5) 治水（洪水調節）の観点からの目的別検討

- ・現況と課題（河道の特性、流下能力、課題）
- ・治水対策 29 方策（栴川ダム案除く）の概略検討と抽出選定評価
- ・治水対策案の詳細検討（3案【栴川ダム】【支障橋梁架替+河道掘削】【引堤】）
- ・治水（洪水調節）の観点からの目的別の評価（7つの評価軸）

6) 新規利水の観点からの目的別検討

- ・高松市の水道の現状と課題（渇水状況、住民意識、気象変動による将来への影響）
- ・高松市の水需給計画の妥当性
- ・利水対策 15 方策（栴川ダム案除く）の概略検討と抽出選定評価
- ・利水対策案の詳細比較検討（3案【栴川ダム】【ため池】【海水淡水化】）

7) 流水の正常な機能の維持の観点からの目的別検討

- ・香東川流域の流水の正常な機能の維持における現状と課題（流況、流域特性、利水現況）
- ・利水対策 15 方策（栴川ダム案除く）の概略検討と抽出選定評価
- ・利水対策案の詳細比較検討（3案【栴川ダム】【ため池】【海水淡水化】）

8) 総合的な評価

- ・各目的別の検討を踏まえた栴川ダム事業の総合的な評価

9) 検討案に係る提出意見とそれに対する県の考え方（パブリック・コメント、関係住民及び関係利水者への説明会）

- ・パブリックコメントの提出意見（14人33件）に対する県の考え方
- ・関係住民及び関係利水者への説明会（4会場、参加総数155人）での意見に対する県の考え方

10) 対応方針（案）

- ・本検討における総合的な評価を踏まえた対応方針案（事業継続の方針）

3. 本検討に対する検討委員会の意見

検討委員会の設置の目的は、検討主体である県が、国土交通省が定める「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づく、ダム事業の検証に係る検討の実施にあたり、「関係地方公共団体」と相互の立場を理解し、検討内容の認識を深めるとともに、「学識経験を有する者」の意見を聴くことである。検討委員会の基本的な立場としては、主に「(1) 治水対策案・利水代替案等目的別の検討内容」、「(2) 総合的な評価」及び「(3) 対応方針原案」についての意見を述べることにあるが、各検討段階において「代替案としては十分ではないが、有効な対策」について、その効果と推進の必要性を指摘するなど、今後の行政の総合的な施策への取り組みについても提言を行ったところである。

以下、本検討に対する検討委員会の意見をまとめる。

【検討過程で議論され検討内容に反映した意見】

○香川県の地域の実状を把握し、地域特性を考慮しつつ「治水」「利水」「流水の正常な機能の維持」の各目的別の検討を行うこと。

- ・「治水」「利水（水道用水）」だけでなく、「流水の正常な機能の維持」についても、同レベルでの検討が必要ではないか。[学識経験者]
- ・ダムができることによる、生物の多様性の変化を見る視点も必要である。[学識経験者]
- ・トップダウン的に国から検討手法が決められているが、全国共通の考え方だけではなく、地域特性を考慮し、ボトムアップ的に議論すべきではないか。[学識経験者]
- ・地域の現状を把握して、評価軸の重み付けを進めていくことが重要である。[学識経験者]
- ・地元の意見を踏まえる必要がある。[学識経験者]
- ・今後の検証の中で、適切な治水計画が図られるよう検討していただきたい。[高松市]
- ・早明浦ダムの利水安全度が非常に低くなっている中で、渇水時に水が不足している。利水の観点から水需給計画を評価したものを示し、本検討委員会で水源確保策を議論していただきたい。[高松市]
- ・香川としての地域の独自性を出した整理の仕方についても考えるべきである。[学識経験者]
- ・ダム事業費の減額理由については、もう少し分かり易く整理すべきである。[学識経験者]
- ・内場ダムの活用については、操作ルールやかさ上げ以外にも、農業用水用の容量の一部を洪水調節用に転用することも検討すべきではないか。[学識経験者]
- ・堤防を全体的にかさ上げすることは堤防決壊時等にリスクが大きくなり、原則すべきではないが、部分的なかさ上げは有効性があるというのは理解できる。[学識経験者]
- ・「環境への影響評価」で検討されたCO₂排出負荷量についてはもう少し丁寧に分析してもいいのではないか。[学識経験者]
- ・渇水県である香川県としては、海水淡水化はコストが高いが、観光資源、科学教育の面から有効と考える。[学識経験者]
- ・検討案に係る提出意見とそれに対する県の考え方に一部分かりにくい表現があるので、具体的に記載すべきである。[学識経験者]

【椋川ダム事業を実施する上での課題等についての意見】

○ダムの安全性や環境への配慮等を行いつつ、ダム事業の早期完了とコスト縮減を目指してほしい。

- ・治水対策案として、椋川ダム案が一番有効という結果は理解できる。ただし、環境対策を行っただけで事業実施することが必要である。[高松市]
- ・水道利用者の負担軽減の観点からコスト縮減に努めて欲しい。[高松市]
- ・工事については、一日も早い着工と早期完了をお願いしたい。[高松市]
- ・椋川ダムにより、水とのふれあいの場を創出することを考えて欲しい。[学識経験者]
- ・東日本大震災が発生した後であるので、ダムやため池の安全性には十分配慮して欲しい。
[学識経験者]

- ・栂川ダムの耐震性については、東日本大震災を踏まえた防災計画や基準等の見直しに併せて、今後必要な検討を実施して適切に対応すべきである。[学識経験者]
- ・可能な限りダム事業の工程計画を明らかにし県民に示していく必要がある。[学識経験者]
- ・今回の検証作業により、ダム事業を推進していくことにさらに確信が深まった。[高松市]
- ・これまでの委員会での意見については、今後とも十分に尊重して事業を推進して欲しい。
[高松市]
- ・環境対策については、多少コストがかかっても周辺環境を整備して欲しい。[高松市]

【今後の行政の総合的な取り組みに対する意見】

○今回の検討では代替案とはならないが、治水・利水対策として有効であり、今後も行政として総合的に取り組むべき施策について提言する。

- ・雨水貯留施設や森林保全等はダムの代替案になる程の大きな効果はないとしても、治水対策として有効なものは、とりまとめ時にその旨をきちんと示すべきである。[高松市]
- ・栂川ダムによる自己水源の確保策により利水安全度を向上することは重要であるが、「早明浦ダムの取水制限＝香川県の渇水」では、渇水頻度が変わらず、風評被害的な状況が続く恐れがあることから、渇水の定義を明確にし、情報提供のあり方についても検討していくべきである。[高松市]
- ・栂川ダムの渇水対策容量について、宝山湖と併せて有効な運用方法を考えておいた方がよい。
[学識経験者]
- ・栂川ダムの必要性に疑問はないが、天水に頼らない、海水淡水化や地下水の利用等による水源確保の多様化についても検討すべきである。[学識経験者]
- ・新規利水の観点からは、栂川ダムが最も有効であるが、渇水に対する問題点をすべて解決できるわけではないので、今後の検討課題を整理しておくべきである。[学識経験者]
- ・栂川ダムが最も効果的であるとの結論であっても、洪水や渇水被害等の問題がすべてにおいて完全に解消されるわけではない。今後も行政の課題として、総合的に対策を検討する必要がある。[学識経験者]

4. 検討委員会の審議結果

■第2回検討委員会の審議結果

- ・「治水（洪水調節）」に関して、国から示された26例示を基に、現計画（栂川ダム）案以外に29方策を検討し、抽出した2案と、現計画（栂川ダム）案について、安全度、コスト、実現性、持続性、柔軟性、地域社会への影響、環境への影響の観点で詳細に比較検討した結果、栂川ダムによる現計画案が最も有効であると判断された。

■第3回検討委員会の審議結果

- ・「新規利水」及び「流水の正常な機能の維持」に関して現計画（栂川ダム）案以外に15方策を検討し、抽出した2案と、現計画（栂川ダム）案について、目標、コスト、実現性、持続性、地域社会への影響、環境への影響の観点で詳細に比較検討した結果、栂川ダムによる現計画案が最も有効であると判断された。
- ・前回委員会で審議した「治水」の検討結果を含め総合的に評価した結果、栂川ダムを中心とする現計画案が最も有効であるとの結論を得た。

■第4回検討委員会の審議結果

- ・「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に沿って、治水・利水両面から総合的に評価した結果、最も優位である「現計画（栂川ダム）を継続して事業を進める」とした県の対応方針は妥当であるとの結論を得た。

5. 本検討における検討委員会の意見及び審議結果（総括）

- 「ダム検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に沿って検討した結果、「現計画（栂川ダム）を継続して事業を進める」とした県の対応方針は妥当である。
- 検討段階での意見については、今後の行政施策の実施にあたり適切に対応されたい。